



令和8年はたちの成人のつどいが1月11日、観月台文化センターで開催されました。今年は80名がはたちの成人を迎え、華やかな振袖やスーツに身を包み会に臨みました。

会では、村上利通町長が「支えてくれた家族や周囲への感謝を胸に、一隅を照らす思いで、今いる場所で最善を尽くし、次の世代を支える大人として歩んでください」とお祝いのことを述べ、エールを送りました。また、一人ひとりの名前が読み上げられた後、代表の中野心裕さんにはたちの成人証書が手渡されました。

はたちの成人を代表して齊藤眞緒さんが「ここまで歩んでこられたのは、家族や友人、先生方、地域の皆さまの支えがあったからこそです。社会や価値観が大きく変化する時代の中で、不安や迷いもありますが、自ら考え選びながら一歩ずつ前へ進んでいきたいと思っています。感謝の気持ちを胸に、社会の一員として責任ある行動を心がけ、努力を重ねていきます」とお礼の言葉を述べ、はたちの成人としての誓いを新たにしました。

会の終了後には、実行委員が企画した記念レセプションが開催され、友人や恩師との久しぶりの再会を喜び合い、思い出話を花を咲かせました。参加者たちは、新しい時代を担う決意を胸に、大人への一歩を踏み出しました。

人生の門出、笑顔晴れやかに――

はたちの成人のつどい

R8.1.11 国見町観月台文化センター

自分のこれから、世の中も、少しずつ明るくなっていったらいいと思います。

通っていた学校の先生に憧れて、教師を目指しています！生徒一人一人に寄り添える先生になりたい！

育ててくれた家族や地域の皆さんに感謝を伝えて、恩返ししていきたいです！



将来の夢、今後の抱負、感謝の気持ち――。人の数だけ思いがある。キラキラした成人の皆さんに今の気持ちをインタビューしました。

「はたち」の 気持ち